

CAA&MAU



**2019 年度
協定校プロジェクト報告**

2019 中国美术学院+武蔵野美術大学 大学院交流プロジェクト

**中国美术学院サマーキャンプ
革新志向のデザインと造形
in China**

○A6 判ガイドブック(表紙)
中国美术学院制作

革新志向のデザインと造形 in China

国美と武蔵美

そして中国美術学院サマーキャンプ

中国美術学院と本学との関係は水尾元学長のとき、90年代初頭に遡る。詳しいことはわからないが、工芸工業デザイン学科の教員が中心になって日中の交流展が行われたと聞いている。これを切っ掛けに中国美術学院は本学初の国際交流協定校となった。1994年のことである。その後は、真田教授、田中教授が招聘教授として何度も訪中し親密な交流を継続していたが、田中教授の退任後、残念ながら中国美術学院との交流は閉ざされてしまった。

2014年の本学卒業制作展公開日。中国美術学院の馮節教授（現在は上海美術学院）が本学の国際部を訪ねて来られる。『中国美術学院と武蔵野美術大学の卒業制作展』を上海で開催したいとの意向を伝えるための来校であった。2014年は両校協定締結20周年の年。中国美術学院側は協定締結のことをしっかりと記憶されていた。水尾元学長をはじめ当時の工芸工業デザイン学科の先生方がどれだけの貢献をされたかがよくわかる出来事である。悲しいかな本学ムサビには、20周年を意識していた人はいなかった。

実は、馮節先生は本学視覚伝達デザインの大学院を修了した卒業生であった。協定締結20周年を知り、卒業生として提案は責任、実現は責務、是が非でも押切したいとの思いであった。彼女との後日談である。留学生の母校への思いは途轍もなく強い。こうした方に出会う度に、自分について深く省みることになるが、成長しない自分がある。

ムサビが大好きな馮節先生に押切られた国際部課長から何とかしてと相談があったのは、春の優秀制作展終了後の5月GW明け。内容を聞けば、困難で無理、大変な話であった。その大変な内容は今回の主旨ではないため省略するが、私は二つ返事でその仕事を受けた。理由は、日本から学生を同行させることを条件にし、了解されたからである。

私は、30年前から恩師に同行し中国を訪問してきた。自分の目で中国を見てきた。日本は、日本人は、武蔵美は、武蔵美の学生は、中国を誤解している。中国は最先端の国であり、世界のありとあらゆる本物が存在していることを知るべきである。その未来を感じておくべきである。一方中国には、今の日本では体験できない、見聞き出来ない、時とともに消え失せた様々なコトが今も存続している。現代が求める便利と効率の本質を考察するには最良の思考の場でもある。サービスについても然り。しかし何よりも、隣国中国の人々を知るべきだと思うのである。「人を知る」というのはありきたりな言葉だが、実はなかなか機会がないことでもある。

学生に、観光ではなく中国での展示作業を体験させられる。大変と困難というだけで、この貴重な機会を無にするなんて考えは、そもそも私には無い。6月、大学院の日本人学生2名と留学生2名を同行して、上海に向かった。

時間と予算の関係で全デザイン学科50人の学生作品、現物を持ち込むことは無理である。しかし中国美術学院側は、ムサビに300平米を超える展示空間を用意している。作品の現物が無い状況でそれを満たさなければならない。展示プランはさて置き、あることを除いて目的はほぼ達成でき、その展示は上海伊勢丹で再展示されることとなった。

この交流展示の開幕式を仕切っていたのが、今回の中国サマーキャンプに私達を招待してくれた中国美術学院創新設計（イノベーションデザイン）学院の吳小華院長である。

一人でも多くの日本人を観光以外で中国に触れさせたい、そんな思いで私は訪中の際、度々学生を誘ってきた。貴重な文化や自然遺産があるのももちろん観光もする。しかし目的は、隣国の人々に接すること、自分の身体で中国を知ってもらうことである。

そんな私に提案された今回の協定校交流プロジェクトは申し訳ないほど恵まれた内容であった。それは自国学生への教育を強化する中国政府の方針であり、若者に未来を託す中国政府の姿勢でもある。国外の教員招聘も凄まじい。

条件は、10名の大学院生をプロジェクトに招待すること。参加者には往復航空チケットが支給されること。1ヶ月間の滞在に大学寮が無料提供。参加費用は貴州省黔ケン東南地域訪問費4000元（約75000円）と制作材料費、日々の小遣いとビザ取得経費だけというあり得ない待遇であった。それにも関わらず参加者は定員に届かず9名。条件に左右されない強みかとも思うが、これが学生の現状である。

上海の中国美術学院上海校大学寮に到着して分かったことであるが、滞在日数分の大学食堂で使えるチケットも、教員を含めて全員に無料配布された。さらに朝食は毎朝、吳院長が手作り。それがまた美味しい。私達教員も同様に学生たちと大学寮で恵まれた中国生活を共にした。

教員はCLコース5名の参加者がデザイン演習の履修者であることから演習を担当する通信教育の白尾教授（8/1-15、20-26）と、版画コースから2名の参加者があったことから遠藤教授（8/20-26）に同行をお願いした。さらに中国美術学院からの招聘要請でCI学科から長谷川教授（8/13-15）が、通信教育から清水教授、工デから山中教授（8/20-26）にご参加いただき、企画相談、制作指導、徹夜の展示作業まで指導していただいた。そして記録助手として関根CI研究室スタッフ（7/28-8/15、8/20-26）も招待され、中国美術学院が本学より1年先に設置した創新設計学院の視察を兼ね河野事務局員（8/20-26）が参加した。先生方が快く訪中を受けてくれたこと、この場をお借りし、深く深く、心より感謝いたします。

さて、最終最大の概念が何かは分からないが、それが内包する森羅万象、全てに始まりと終わりがあるのであろう。そしてその長さは多様であり、生物の場合、その多様な個々の長さが継続し、または関係し合っ種という上位の長さが維持されている。それらの長さを時間とし、また寿命と考えるならば、続くということは個の寿命の重なりや接することから起こる繋がりであり、それがあって初めて上位の時間が存在する。その際、個は同じではなく別物であってもその時間は存在し、継続が維持されるのである。また、上位の時間が存在しているならば復活もあり得るのである。

創立100年を迎えようとしている中国美術学院と本学。そこに関わってきた多くの人々。その個々の責任と責務が繋がり、100年という時間が経ち、両大学が存在する。

中国美術学院と武蔵野美術大学との関係は、水尾先生と工芸工業デザインの教員との協力で始まり、真田先生と田中先生が引き継いだ。一度は途切れた関係を卒業生の馮節先生が復活させ、私との関係が生まれ、長澤現学長と吳院長との友情に繋がって、そして今回、吳院長の計らいのもとで学生間の交流へと進展した。そこに5名の素敵な先生に関わって頂けたことがまた更に素晴らしい。

長谷川先生には創新設計学院とCI学科との関係から、清水先生には本学の若手教員代表として、山中教授には中国美術学院と本学の絆となった工芸工業デザイン学科との交流を是非とも復活させて頂きたいという想いを込めてお願いさせて頂いたこと、ここに添えておきたい。

※中国美術学院の創立は1928年、武蔵野美術大学（帝国美術学校）1929年。創新設計学院設置が2018年、CI学科設置2019年。



「革新志向のデザインと造形」in China

今回のプロジェクトは、大学院CLコース、映像コース、版画コース、IDコースから9名の大学院生と4名の教員が、中国美術学院創新設計学院 吳小華院長から招待を受け、中国美術学院サマーキャンプと題して実現した日中交流プロジェクトである。

プロジェクトは、貴州省黔东南地域を訪れ、中国少数民族はミャオ族とトン族の伝統、文化、歴史、生活の調査と体験から革新的志向を導こうという試みで、上海校区での中国文化講義実習週間の後、ミャオ族トン族保護区の村々を調査訪問し、上海に戻ってからその成果を展示発表する三部構成となっている。さらに東京での展示報告をする。

吳院長が今回設定したテーマは、「存在と時間」という難題であった。

日本に稲作を伝えたと言われているミャオ族と今もチヨンマゲを継承するトン族。女性たちは華やかに着飾って、曲調音色は日本のものとは異なるが、いずれの男たちも笙を奏で、謠い、密かに伝統を守り続けてきた。

それを支えているモノは何か？

それを守っているモノは何か？

そこから見えてくるコトは？

継続と持続、変化と進化。

保護と維持、便利と効率、そして富と幸福。

学生達は、この少数民族の地に身を置き、中国美術学院の学生と武蔵美生が一对一のペアとなって「存在と時間」という難解なテーマに挑んだ。



○B2 判ポスター
中国美術学院最作

革新志向のデザインと造形 in China 中国美术学院サマーキャンプ



存在与时间——中日研究生创新设计创作营
存在と時間——日中大大学院生クリエイティブデザイン創作キャンプ

2019.7.28 - 8.26

《存在与时间》是德国哲学家海德格尔的代表著作。在书中,海德格尔对于人的生存状况从结构上作出分析,认为生存在世界上的“人”,必将通过情绪、领会。语言等方式与各色各样的物事打交道,世界也就在这种展开中同时成为人的舞台。

2019年7月28日至8月26日,来自日本武藏野美术大学和中国美术学院的20位研究生将汇聚上海。在此期间,中日学生将以“存在与时间”为创作主题。结合自身原有知识结构和专业背景。采用中日研究生“一对一”联合创作的方式。共同前往贵州黔东南地区进行为期十天的实地调研。体验和聆听中国少数民族地区的和道之声。最终,以时间为背景,从生活中发现一切存在的可能性和问题,寻找“存在”的意义,用创作阐明时间性与空间性。面信这次创作之旅也终将成为中日青年艺术家和设计师用学术和创意对话的一段美好体验。

「存在と時間」は、ドイツの哲学者ハイデガーから代表的な著書である。本の中でハイデガーは、人間の生存状況を構造的に分析し、世界に生きている「人間」が情緒、理解、言語などを通じて、いろいろなものに付き合い、世界がこのような展開の中で同時に人間の舞台になると考えられる。

2019年7月28日から8月26日まで、日本の武蔵野美術大学と中国美術大学の大学院生20人が上海に集める。その間、中日の学生は「存在と時間」をテーマに、独自の知識の拘造と専門的な背景を結び付け、中日大学院生が「一対一」の共同創作の方式を採用し、共同で貴州黔东南地域への10日間の実地調査を行い、中国の少数民族地区のハーモニーを体験し、聞きしに行く。最終、時間を背景に、生活からすべての存在可能性と問題を見つけ、「存在」の意味を探し、創作で時間性と空間性を明瞭にする。今回の創作の旅は中日の青年芸術家とデザイナーが学術と創意で対話する素晴らしい体験になると信じている。



Member

CAA 中国美术学院教员

吴小华(創新設計学院院长)
胡晓琛
孙姝婕
郭奇
张青
张韵韵
肖中海
张鼎力
赵友杰
王咪

CAA 创作营学生团队

陈依清
郑心怡
顾少杰
钱新妍
甘晨曦
戴佳林
濮仕珊
王凡
刘致良
张钦宇

MAU 武藏野美術大学教员

訪中間 ※は中国側招待
篠原規行[※](CI学科)7/28-8/15,8/20-26
白尾隆太郎(通信教育課程)8/1-8/15,8/20-26
遠藤竜太(油絵学科版画専攻)8/20-26
長谷川敦士[※](CI学科)8/13-15
山中一宏[※](工芸工業デザイン学科)8/20-26
清水恒平[※](通信教育課程)8/20-26
河野通義(事務局)8/20-26
関根 亮[※](CI学科研究室スタッフ)7/28-8/15,8/20-26

MAU 武藏野美術大学学生

学生は全て中国側招待
北村 梓(大学院造形構想研究科CLコース1年)
齊木悠太(大学院造形構想研究科CLコース1年)
沢崎美季(大学院造形構想研究科CLコース1年)
塗木拓朗(大学院造形構想研究科CLコース1年)
山本 薫(大学院造形構想研究科CLコース1年)
菊地知也(大学院造形研究科映像写真コース1年)
富永華苗(大学院造形研究科版画コース1年)
中村朝咲(大学院造形研究科版画コース1年)
福吉孔志郎(大学院造形研究科IDコース1年)

中国美术学院サマーキャンプ

中国日程：2019年7月29日（土曜日）～8月26日（金曜日）

日本日程：2019年11月8日（土曜日）～11月16日（金曜日）

Schedule 1

第1部 中国美术学院での交流と学修

7/28 PM 上海虹橋空港 中国美术学院到着
日中合同ミーティングと歓迎会

7/29 AM 開幕式と両国学生の自己紹介
日中両校の紹介
PJT テーマ「存在と時間」についての説明
PM 中国伝統書画実習 - I

7/30 AM 中国伝統文化講座 - 第1講 「上海“魔都”と暮らしの町文化」
PM 中国伝統書画実習 - II

7/31 AM 中国伝統文化講座 - 第2講 「中国演劇文化と京劇芸術鑑賞」
PM 中国伝統書画実習 - III

8/01 AM 中国伝統文化講座 - 第3講 「中国伝統文化の書画鑑賞」
PM 中国伝統書画実習 - IV

8/02 AM 中国伝統文化講座 - 第4講 「中国古琴の形の美しさ」
PM 中国伝統書画実習 - V



中国美术学院サマーキャンプ

中国日程：2019年7月29日（土曜日）～8月26日（金曜日）

日本日程：2019年11月8日（土曜日）～11月16日（金曜日）

Schedule2

第2部 貴州省黔東南地域訪問&取材調査

8/03 上海 → 凱裏・上海虹橋駅 - 貴州凱裏南駅

・凱裏市周辺

8/04 凱裏 → 西江・西江千戸苗寨、朗徳上寨

8/05 凱裏 → 加榜・苗妹非遺博物館

8/06 加榜 → 從江・加榜棚田

8/07 從江 → 岜扒・從江周辺地

8/08 從江 → 占裏・占裏侗寨

8/09 從江 → 黄崗・黄崗侗寨、小黄侗寨

8/10 從江 → 肇興・肇興侗寨、侗族生活博物館

8/11 從江 → 岜沙・岜沙苗族

8/12 從江 → 上海・貴州凱裏南駅 - 上海虹橋駅



存在地何同——中日研究学生創新設計創作展
存在地何同——日本研究学生創新設計創作展

中国美术学院サマーキャンプ

中国日程：2019年7月29日（土曜日）～8月26日（金曜日）

日本日程：2019年11月8日（土曜日）～11月16日（金曜日）



Schedule3

第3部 中国美术学院での作品制作展示

8/14・テーマ「存在と時間」について集中討論会

・研究&作品制作企画発表

8/15・研究&作品制作

8/16・研究&作品制作

8/17・研究&作品制作

8/18 OFF

8/19・研究&作品制作

8/20・研究&作品制作

8/21・中間発表

8/22・作品制作

8/23・作品制作

8/24・展示準備

8/25・展示講評、交流会

8/26・帰国



中国美术学院サマーキャンプ

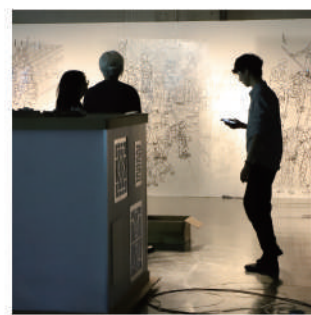
中国日程：2019年7月29日（土曜日）～8月26日（金曜日）

日本日程：2019年11月8日（土曜日）～11月16日（金曜日）

Schedule4

第4部 武蔵野美術大学での展示発表

- 11/08・中国美术学院学生来日
- 11/09・作品展示作業
- 11/10・作品展示作業
- 11/11・鷹の台キャンパス見学
 - ・中日学生合同発表会
 - ・展覧会開会式
 - ・中日教職学生歓迎 & 交流会
- 11/12・日本美術デザイン研修
- 11/13・武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス視察
- 11/14・日本文化研修（富山）
- 11/15・長野富山研修
- 11/16・金沢五箇山飛騨高山研修
 - ・中国美术学院学生帰国



存在と時間——中日研究生創新設計創作展
展示期間——日本美術デザイン研修キャンプ

刘致良

りゅうちりょう

硕士方向：媒介与交互
メディアとインタラクション



2018年毕业于中国美术学院上海设计学院数字媒体系，同年于上海证大喜马拉雅网络科技有限公司任职UI设计师。对沉浸式戏剧之叙事、脚本、用户体验方面有一定研究。参与 YOUNG to young 小学期《天鹅水疗酒店》沉浸式戏剧的脚本写作与叙事，参与纸媒交互方向毕业设计《故事的故事》获优秀毕业设计银奖。爱好摄影，绘画，心理学。

2018年で中国美术学院上海設計学院のデジタルメディア科に卒業し、同年で上海 ximalaya 会社に入り、UI デザイナーを務めていました。没入型舞台の物語を作り、脚本、ユーザー体験などの研究をしていました。YOUNG to young キャンパスで没入型舞台劇「白鳥スパホテル」の脚本を担当しました。創作したペーパーメディアの卒業作品「物語の物語」は優秀卒業作品銀賞を取りました。興味は撮影、絵、心理学です。

修士課程：映像・写真コース
影像・撮影方向



はじめまして。武蔵野美術大学で映像・写真を勉強しています菊地知也です。姓が菊地で、名は知也です。私の専攻は「イメージフェノメノン」という武蔵野美術大学オリジナルの映像表現ジャンルで、観る映像ではなく眺める映像を、そして映像を写真や絵画のように飾る映像を表現として追求しています。他には個人的に映像の古典技法が好きで、化学反応でシアンブルーの写真を作る「サイアノタイプ」、鶏の卵と銀で赤茶色の写真を作る「鶏卵紙」、ルイスキャロルや日本の坂本龍馬の写真が有名なガラスや金属に写真を作る「湿板写真」などをやっています。私の好きな作品は、今までにない何か新しい表現を持ち合わせた作品や、時代や流行に関係のない普遍的なものが好きです。私は古い技術、技法から新しい表現や普遍的なものを発見したくて制作をしています。今回の研修で中国美術学院の皆様と交流できることを楽しみにしています。

菊地 知也

KIKUCHI TOMOYA

初次见面，我是在武蔵野美術大学学习影像・摄影专业的菊地知也。我的专业叫做「图像现象学」，是以武蔵野美術大学原创的影像表现形式，追求创作并非用来观看而是用来观赏的影像，以及创作能像照片或是绘画那样挂起来欣赏的影像。除此之外，我个人也非常喜欢摄影制作的古典技法，会制作一些例如通过化学反应制作照片的「蓝印法」、鸡蛋和银制作红褐色照片的「鸡蛋纸」、因路易斯·卡罗和日本的坂本龙马而出名的在玻璃和金属上制作照片的「湿板照片」等。我喜欢的作品是具备了至今没有的新特征的作品，或是与时代和流行完全不挂钩的具有普遍性的作品。我想在创作中从以前的技术和方法里找出新的表现方法或是具有普遍性的表现形式。非常期待能在这次的项目中和中国美术学院的大家进行交流。



作品名：継承

技術とともに、刺繍文化やその土地に根付いていた風習は時間を通して変容していくものである。作業の機械化によって失われていくものも多いかもしれないが、今も刺繍を違う形で続けている様子を見ると、刺繍の本質は変わらないのではないだろうかと感じる。私たちは作品を通して、人々の刺繍に対しての取組みやあり方を視覚化させることで時間の中で変わるものと変わらないものを形に落とし込んでみることにした。



顾少杰

こしょうけつ

硕士方向：媒介与交互
メディアとインタラクション

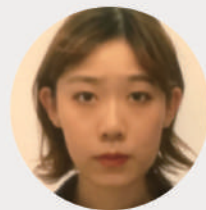


大学は中国美术学院でガラスアートデザインコースを学んでいて、大学院でメディアとインタラクションを専攻として勉強しています。大学はデザイン系の手工芸学院でガラス芸術を学んでいて、立体的な造形能力は高いと思います。材料試験の基礎と経験があった為に、様々な材料を使う能力やパブリックアートの知識もっています。私は勇気があり、挑戦することが好きです。自然を愛しています。普段は手作り（服装、大工、料理、ガラス）、アウトドア、空間収納、花の栽培、古い家電の収集と修理（失敗かもしれませんが）、バイクが好きです。

本科专业是中国美术学院玻璃艺术设计专业，研究生专业是媒介与交互。因我的本科专业为设计类手工学院的玻璃艺术，立体造型能力较强，有一定的材料试验基础和经验，擅长于不同材料的运用以及公共艺术方面知识。我是个勇敢喜爱尝试的人，热爱大自然，平常爱好做手工（服装、木工、食物、玻璃）、户外运动、空间收纳、养花、收集老电器以及修理（可能会损坏）、摩托车。

修士課程：美術専攻 版画コース

初次见面，我叫富永华苗。现在作为研究生在学校学习版画专业。平时的版画创作会使用石板和木板组合进行作品的制作。我曾经在上海住过一段时间，所以我很高兴这次可以通过学校的项目再次来到上海。第一次能和平时在学校里没有交集的同学们一起参加活动进行创作，让我非常期待这次上海和贵州的旅程，还请大家多多关照。



富永華苗

TOMINAGA KANAE

初めまして。富永華苗と言います。普段は版画のリトグラフと木版を組み合わせて作品制作をしています。昔上海に住んでいたんで、こうして学校の行事でまた上海へ帰るのを嬉しく思います。普段の学校生活で、あまり関わらない方々と一緒にやって、ものを作るのが初めてなので楽しみです。よろしくお願ひ致します。



作品名：蜉蝣

作品介绍：四次元虫とはある精神病患者の提示した架空の概念であり、人、自然、社会はすべて3次元のオブジェクトであると捉えます。

時間の次元での視点では、3次元空間、人間、自然、社会、すべての時点は4次元空間の単なる断面であり、時間の観点から、誕生から成人、死までの成長段階全てを見通すことができます。それはまたバグのようなものでもあります。全てのバグは存在と時間の中でワーム状の生物のようなものであり、つかの間でありつつ常に続いているものでもあります。





大家好，我的名字是沢崎美季。首先，很感谢有这样一个机会，能和中国美术学院的大家一起交流学习。我的本科毕业于武藏野美术大学的基础设计学部，去年毕业以后今年继续在武藏野的 creative leadership 学科读研究生，研究的题目是：“关于触觉”。因为本科学习了很多 UX/UI 的东西，平时作为 branding 会做一些包装、产品以及 Logo。因为我自小时候开始就很喜欢画画和做东西，所以接下来也很期待和大家一起，做一些创新的革新的产品出来。请大家多多关照！

沢崎美季
SAWAZAKI MIKI

修士課程：クリエイティブリーダーシップ
创新领导力学科



钱欣妍
せんきんげん

硕士方向：媒介与交互
メディアとインタラクション

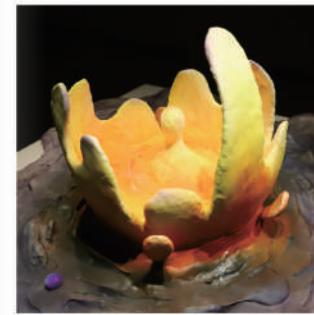
来自中国美术学院，本科专业为产品设计，偏向于文创方向，除此之外还做过食物设计和新材料的研究。目前的研究方向是民俗舞蹈的数字化表达与传承。技能点全面，擅长平面和手绘，喜欢跨界设计，坚持写作，文案优秀，是逻辑担当。在课余时间，喜欢研究传统手工艺品、到处旅行和原创设计手作。



中国美术学院卒業し、プロダクトデザイン学科で学んでいました。学んだことは文化創意方向に近いと思います。その他にも食物デザインと新素材の研究をしたこともありました。今の研究テーマは民俗舞蹈のデジタル表現と伝承です。技能は全面的に得ていて、グラフィックデザインと絵を描くことが得意です。様々なフィールドを跨ぐデザインすることが好きです。ずっと執筆をしていて、文章を書くことが得意で、ロジックに関するのも優秀です。暇の時には、伝統工芸品の研究や旅行、オリジナルな手作りをデザインすることが好きです。

作品名：平凡な一日

作品介绍：都市の人々は効率的な生活を求めて、とてもストレスフルな生活を送っています。しかし、貴州で私たちがリサーチした少数民族の人々の生活は穏やかで、悠々としていました。休憩したり、会話したり、仕事をしたりする場面や、都市の人々が地下鉄や信号を待つ間、それぞれの人々のなんでもない日常との対比から、重ねた画面を利用して都市の人々と地元の少数民族の住民の時空間を交錯させることで、同じ時間の中でゆっくりと流れる田舎のリズムと慌ただしく乱雑な都会のリズムを表現しました。少数民族の人々の時間を純粋に感じて生活を楽しんでいるところから、少しでもゆっくりと時間を過ごすことの幸福感を感じて欲しいと思います。



作品名：《Speed》

大都市から遠く離れた貴州で自然が生み出す壮大な景色を体験しました。少数民族の女性は世代によって違う速さの生活を送っています。家族のため忙しく働く若者、守られ生きる子供、ゆったりとした日々を送る老人、それぞれのもつ生活速度の違いを水、苗族のトーテムである蝶を用いて表現しました。

陈依清
ちんいせい

硕士方向：媒介与交互
メディアとインタラクション

浙江省杭州生まれ、大学は浙江工商大学の視覚伝達デザイン科で学んでいました。大学院でメディアとインタラクションデザインを学んでいます。パッケージデザインや、ブランド企画とデザイン、書籍装丁とイメージデザインなどの科目も習うことがありました。授業の余暇でブランディングや、広告企画やイラストデザインの仕事もしたことがあります。自分は朗らかで、自由な人だと思います。普段はイラストを描いて、自分の生活を記録することが好きです。様々な種類の映画も結構観ています。様々な風景も結構見に行きます。他にも、音楽やタトゥー、料理も上手にできます。



出生于浙江杭州，本科就读的专业是浙江工商大学视觉传达设计，研究生专业是媒介与交互设计，接触学习过包装设计、品牌策划与设计、书籍装帧以及形象设计等方向的课程，利用课余时间参与过品牌、广告策划以及插画设计工作。我的性格比较阳光自由，爱好用插画记录生活还乐于尝试各种风格的电影和领略不同的风景，除此之外我对于音乐、纹身设计、料理也都擅长。

修士課程：工芸工業デザインコース
工艺工业设计方向

武蔵野美術大学の卓球部に所属しています。そろばんを7年間ならってました。どちらも、中国に由来があるものなので、今回の訪問とても楽しみにしています。驚くことに、私の名前は三国志に登場する天才軍師・諸葛亮孔明が由来しています。サム・ライミ監督の映画「スパイダーマン」が大好きでスパイダーマンのイラストをよく描きます。

福吉孔志郎
FUKUYOSHI KOSHIRO

我加入了武藏野美术大学的乒乓球社团，以前也有过七年的珠心算学习经历。乒乓球和心算都来源于中国，所以我非常期待这次交流活动。我非常喜欢蜘蛛侠系列电影。令人比较吃惊的是，我的名字是从三国演义中的诸葛亮孔明而来的。所以我也经常会画一些蜘蛛侠的插画。



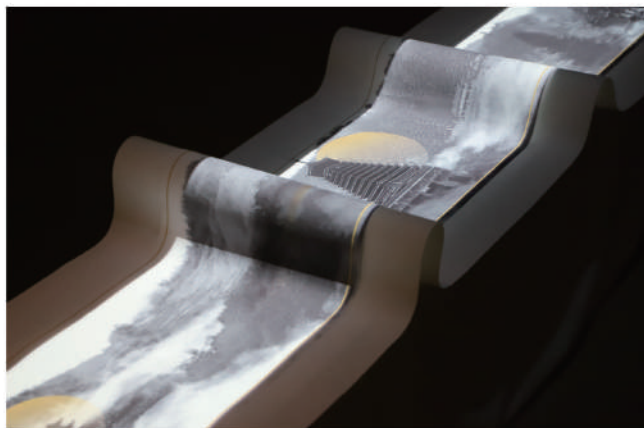
甘晨曦
かんしんき



硕士方向: 媒介与交互
メディアとインタラクション

大家好,我叫甘晨曦,我来自江南大学的整合创新实验班。整合创新实验班由江南大学设计学院于2012年开设,在整创班的学习与实践过程中,学会了根据用户需求、实际社会环境或商业条件,定义产品与服务,提供合理、可行、整体的解决方案。并具备良好的团队沟通能力。同时在学习之余喜欢看书,玩游戏,画水彩画亦或是烹饪,并经常利用周末时间在道馆学习柔道锻炼身体。

初めまして、江南大学の統合創新実験班に卒業した甘晨曦と申します。2012年江南大学で統合創新実験班を開設しました。そこでの学習と実践を通じて身につけたことは、ユーザーのニーズと実際の社会環境あるいはビジネス条件によって、製品とサービスを定義し、合理的、実行の、総合的な解決策を提供します。チームのコミュニケーション能力が良いです。私は授業の暇で本を読むことやゲーム、水彩画と料理が好きです。週末は道館に通って、柔道をやって身体を鍛えています。



塗木拓朗
NURUKI TAKURO

修士課程: クリエイティブリーダーシップ
創新领导力学科

Hello, everyone in China Academy of Art. It's nice to see you. I'm Takuro from Japan. I am a first year of graduate student in MAU and now working for Japanese advertising agency as a marketing planner. My major in MAU is communication and service design. And I'm interested in magazine editing and some cultural stuffs like movie, fashion and music as well. It's first time to visit China for me. I am looking forward to see you guys!

中国美术学院の各位同学,很高兴见到你们。我是来自日本的拓朗。现在是武蔵野美術大学研一的学生,同时也在日本广告公司担任市场规划的工作。在武蔵野美術大学,我学习的课程是交流和服务设计。我对杂志编辑,以及像电影、时尚和音乐之类与文化相关的事物感兴趣。这是我第一次来到中国,非常期待和各位相遇!



作品名: 吾之所在 / 居場所の形

苗族や侗族の人々は、暮らしの中に強い帰属感を持っていた。家族、自然、仲間、建物。様々な物事の中に彼らの居場所があった。東京や上海といった近代都市の生活は洗練されている。けれど、すべてがデジタルに変換されていくその暮らしに、居場所はあるだろうか。中国絵を模した巻物と、旅路を記した zine。2つの異なる紙を編むことで「居場所の形」を表現した。わたしの居場所は、どこにあるのだろうか。



作品名: 風色の橋 / 风过桥间

貴州黔东南ミャオ族・ドン族の村の生活は、シンプルでどこか見えませんでした。けれどもその生き方・時間の使い方は、私たちの生活と二項対立的なものではなく、私たちの中にもあるもの・共存すべきものだと思っています。この作品では、貴州の象徴的なビジュアルの一つである“風雨橋”をモチーフにして、大都会の中で、貴州の生活リズムや時間の流れが感じられる空間を創ろうと試みています。



修士課程: クリエイティブリーダーシップ
創新领导力学科



Career

- Waseda University Graduate (master in English literature).
- Entered advertising company (Hakuhodo) in 2006. Worked as Strategic Planner about 13 years.
- Entered Musashino Art University Graduate school April 2019.

Interest

- Cultures (Do Japanese tea ceremony)
- Travel (Japan and abroad).
- Design (Especially of northern Europe)
- Fashion
- Japanese music (Go to music festivals)

山本薫

YAMAMOTO KAORU

经历

- 本科毕业于早稻田大学英语文学专业
- 2006年进入博报堂广告公司作为策略规划师工作约13年
- 2019年4月进入武蔵野美術大学学习

兴趣

- 文化 (有在学习茶道)
- 旅行 (日本海内外)
- 设计 (尤其是北欧的设计风格)
- 时尚
- 日本流行乐 (经常去音乐节)

郑心怡
ていしんい

硕士方向: 媒介与交互
メディアとインタラクション

本科毕业于中国传媒大学数字媒体艺术专业, 现在是中国美术学院创新设计学院的研一学生, 目前的研究方向是新媒体舞台技术。平时的兴趣是画点插画(很少)、做手工、东京散步、和家养小猫打架。最近的新尝试是胶片摄影。美好愿望是天天有刚出炉的面包吃。

大学は中国伝媒大学芸術学部のデジタルメディアアート学科で勉強していました。今は中国美术学院創新設計学院の大学院一年生で、研究方向はメディア舞台技術です。普段の興味はイラスト(ほとんど描かないけど)、手作り、東京散歩、うちの猫と喧嘩することです。今が試していますことはフィルム撮影です。願い事は毎日出来たてのほやほやの美味しいパンを食べることです。



王凡
おうぼん



硕士方向：艺术设计理论与研究
アートデザインと理論研究

中国美术学院上海設計学院の都市空間デザイン系景觀デザイン学科に卒業しました。卒業作品「離脱すると飛び込む——董家渡金融まち緑地改造」が中国美术学院上海設計学院の優秀卒業作品賞を取りました。同年、ARChinaで景觀デザイナーを務めて、作品「ACG 主題ビジネス空間景觀デザイン方案」は第十五回アジアデザイン学年賞“ビジネス建築と空間組”銀賞をもらいました。興味は書道と撮影です。

本科毕业于中国美术学院上海設計学院的城市空間设计系景觀设计专业，毕业设计作品《脱离与飞入——董家渡金融城绿地改造》获得中国美术学院上海設計学院优秀毕业设计，同年于捷奥国际任职景觀设计师，作品《ACG 主题商业空間景觀设计方》荣获第十五届亚洲设计学年奖“商业建筑与空間組”银奖。爱好书法摄影。料理也都很擅长

修士課程：クリエイティブリーダーシップ
创新领导力学科

I studied arts and film making in undergraduate and now work as a director and designer in a advetising agency while going to the master course. In the Master, I study speculative design. I am passionate about design, storytelling and our interaction with the surrounding natural environment. I am looking forward to meeting new people and culture I have not met yet.

我本科学习的是艺术影像制作，现在在进行研究生课程的同时作为一名导演和设计师在广告公司进行工作。作为研究生我学习的是思辨设计。我非常热爱设计、叙事表达以及人与周围为自然环境的交互。我非常期待与从未遇到过的人和文化的相遇。

齊木 悠太
SAIKI YUTA



作品名：梭 / 紡

歲月は矢のように過ぎていく。
日々の暮らしを繰り返す、老いていく過程で、同じように見えても1秒ごとに異なる時間を過ごしていく。文化を紡いだ一瞬は永遠に存在するところになる。
そして、それぞれの生活は今も同じように、同時に流れていく。



濱仕珊
はくしさん



硕士方向：艺术设计理论与研究
アートデザインと理論研究

初めまして、濱仕珊と申します。寧波大学の視覚伝達デザイン学科に卒業しました。イラスト、グラフィックデザイン、ドキュメンタリー撮影が得意です。今は中国美术学院上海設計学院の大学院一年生で、研究方向は舞台美術に関係があります。自分の専攻以外になりますと、私は標準的なてんびんざで、普段はちょっと変な音楽を聴いて、ちょっと変なアニメを見て、そしてちょっと変なニンジンは食べません。

大家好，我叫濱仕珊，本科就读于宁波大学视觉传达设计专业，擅长插画，平面设计，纪实摄影等，研究生就读于中国美术学院上海設計学院，目前是准研一的学生，研究方向与舞台相关。除了本领域的相关专业，我是个标准的天秤座，平时喜欢奇奇怪怪的音乐，奇奇怪怪的动画片，不爱吃奇奇怪怪的胡萝卜。

修士課程：クリエイティブリーダーシップ
创新领导力学科

在武蔵野美術大学学期間、我作为企业法人管理在IT企业工作。我对创造价值的过程非常感兴趣。每天花费大量时间在电脑前只是思考管理IT系统让我感觉错过了很多东西。然后我意识到创新的线索在于艺术和设计的领域之中。通过这次活动，我希望能够学习中国文化以及了解中国美术学院的学生们的看法与观点。

I have been working as a corporate system administrator at IT company, while studying at MAU.

I am interested in the process of value creation. I spend most of my daytime just thinking about corporate IT systems and I feel something is missing. Then I thought the clue of innovation is in art and design fields. Through this camp program, I hope to learn Chinese culture and to know the point of view of CAA students.



北村 梓
KITAMURA AZUSA



作品名：communion

貴州に暮らす少数民族の村には、至る所に杉でつくられたコミュニティスペースが偏在していた。すぐに手に入り、扱いやすい杉の木は彼らの生活に大きく貢献しているようだ。

老人たちはそこに集まり自由な時間を過ごし、互いに交流を行う。子供たちは両親が働きに出かけている間に祖父母から歌を教わる。このコミュニティスペースの存在を中心として、彼らは強く繋がっている。

今回の作品を通して、他人との関係が希薄になっている都市に暮らす人々に、コミュニティの在り方を提示できればと思う。



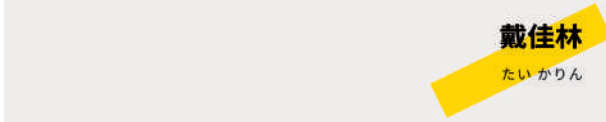
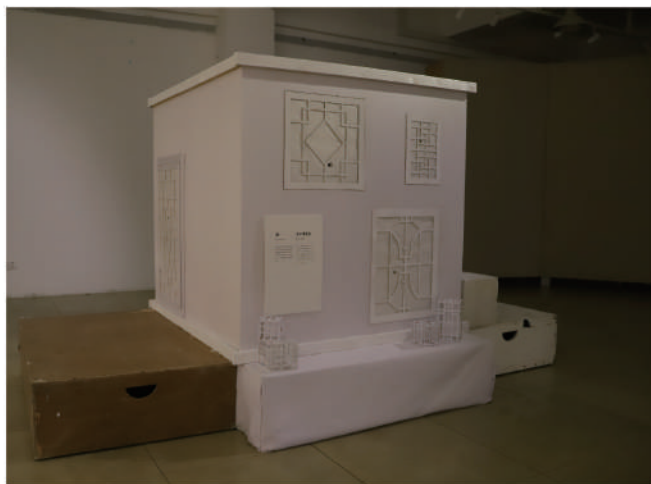
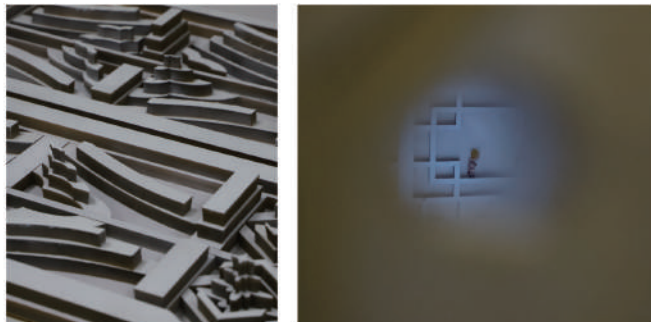


中村 朝咲
NAKAMURA ASAKI

修士課程：美術専攻版画コース
美術学版画专业

大家好，初次见面，我叫中村朝咲。我从本科开始就在学习版画，现在以铜版画干刻的技术为中心进行着作品的创作。希望通过这次机会能够在和大家的交流当中有所收获。非常期待书法相关的课程。虽然我不会英语和中文，但还是希望大家能多多关照了

皆さん、初めまして。中村朝咲です。私は大学1年生から版画を専攻していて、今は銅版画のドライポイントという技法を中心に制作しています。皆さんとの交流を通して色々なことを学んでいけたらいいなと思っています。書道の授業がとても楽しみです！英語や中国語はあまり話せませんが、どうぞよろしく願い致します！



戴佳林
たいかりん

硕士方向：文创产品设计
文化创意製品デザイン

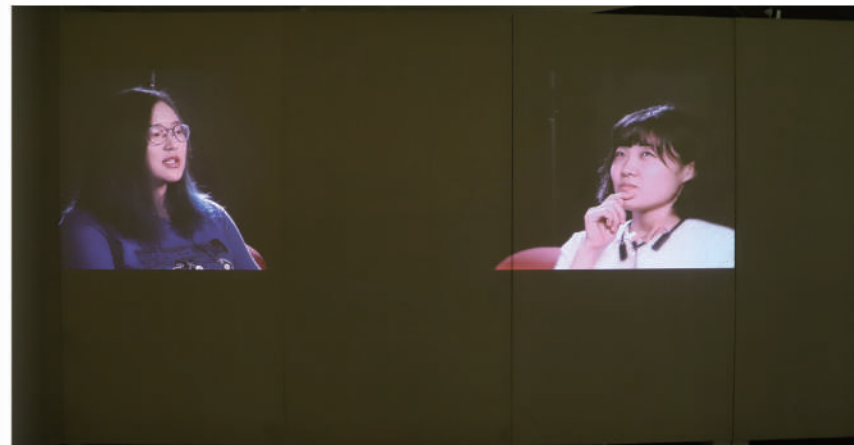
2018年本科毕业于中国美术学院上海设计学院动画专业，现在是文创产品设计专业的研一，毕设《饿了么？》获优秀毕业设计铜奖，参与国家暨旗设计，校园文化建设项目，作品《食物》参与未来仮想サンプル展覧。爱好听音乐。

2018年で中国美术学院上海設計学院アニメーション学科に卒業し、今は元の大学の大学院一年生で文化创意製品デザインを学んでいます。卒業作品「お腹が空いたのか？」は優秀卒業作品賞銅賞を取りました。国家の暨旗デザインと学校文化建設プロジェクトに参加し、作品「食べ物」は未来仮想サンプル展覧に展示されました。興味は音楽を聴くことです。



作品名：《窺》「かいま見る」

窓とは、家の中と外をつなぐものです。貴州の窓の模様には、そこで暮らす人々の想いが込められています。窓を通して見える世界には、ただの風景だけではなく、目には見えないものたちが確かに存在しているのです。



作品名：九対九

この作品は今回、創作キャンプに参加した9組の日中学生へのインタビュー映像である。参加者である日中学生へのインタビュー映像を制作することで、口述という形で今回のプロジェクトを記録することが可能になると考えた。さらに、同じ質問に対する各々の回答によって日中学生の考え方と行為の異同を比較し、そして日中の異同を比較することを試みた。



张钦宇
ちょうきんう

硕士方向：艺术设计实践研究
芸術設計と実行研究

2019年で上海音乐学院に卒業しました。専攻はマルチメディアアートデザインコースでした。大学でグラフィックデザインやモデリング用なソフトウェアを学んだことがありました。音楽史、映画、音楽、視聴言語などの授業もありましたから、音楽と撮影に対して興味があります。先生の指導の下で大規模な舞台公演の舞台裏で映像を撮る仕事は何回もやったことはあります。ですから、舞台の流れを結構慣れていました。私は仕事や勉強に対して一生懸命にうまくやりたい人です。今回の日中交流研修に通じて、皆様と仲良くしたいです。そして、今回の授業からさらに知識を得て、研修活動がうまくいけるのが良いと望みます。



2019年毕业后上海音乐学院是自媒体艺术设计专业。在本科期间学习过三维软件、音乐史、电影音乐、视听语言等课程，对音乐和摄影方面感兴趣。曾在老师带领下参加过多次大型演出的拍摄幕后工作，对舞台演出流程有一定了解。本人吃苦耐劳，肯干能干，希望通过这次“中日创作营”的活动，能让老师同学们对我留下好印象，希望此次夏令营圆满成功，也希望我能从中吸收到宝贵的经验和知识。

修士課程：演劇と影視学
戏曲与影视学
在学修士：クリエイティブリーダーシップコース
创新领导力

因喜爱动画，在热情与机遇的碰撞下进入到中国美术学院展开了7年的本硕学习与生活。毕业后去到日本，进入武蔵野美术大学的创新创想研究科，攻读创新领导力专业方向。虽然平时喜欢看传统的2维动画片，但是自己确偏爱制作定格动画，喜欢通过接触不同的材质来寻找动画的不同表现方式。非常开心这次能作为中国美术学院以及武蔵野美术大学两校的成员参加这次暑期创作营项目。在对两校师生的交流与合作期待的同时，对自身来说也是一次非常好的共创体验与学习机会。

アニメが好きで、アニメ専攻として中国美术学院で7年の学部と大学院の生活が過ぎました。この後、日本に行き、武蔵野美術大学の造形構想研究科でクリエイティブリーダーシップコースに入りました。普段は2Dアニメを見るのが好きですが、ストップモーション・アニメーションを中心に制作していて、特に異なるマテリアルを通じて、それぞれのアニメの表現方法を探るのが好きです。今回は中国美术学院と武蔵野美術大学の高校メンバーとして夏の創作キャンププロジェクトに参加して喜んでます。両校の学生と教師とを交流を期待する同時に、自身としては良い共创体験と学習機会だと考えています。

王咪
WANG MI



革新志向のデザインと造形 in China 中国美術学院サマーキャンプ

プロジェクトを振り返って

中日の学生合計 20人で行われた今回のプロジェクトは中国美術学院での様々な講義と貴州省へのフィールドワークによって構成され、最終的なアウトプットとして作品制作を行った。講義では上海の歴史、中国の伝統的な書画、京劇、古琴について学び、書画については数日間かけて実践的な演習も行われ、より深い歴史や成り立ち、表現方法に触れることができた。伝統文化について漠然としたイメージを持っていた学生も歴史的な変遷や文化的背景を元に、あらためて学修をすると、その文化について様々な側面から理解を深めることができたという声もあり、手応えを感じている様子が伺えた。

また一ヶ月間の中盤には 10日間の日程で貴州省へのフィールドワークが行われた。上海から高速鉄道で約 9 時間の貴州省は日本の中規模都市の雰囲気、少数民族が多く暮らす地域となっている。主に苗族(ミャオ族)、侗族(トン族)の集落を訪れたが、その多くは都市部から数時間の山間部にあることが多く、のどかな風景とともに中国大陸の雄大さを感じる旅路となった。

フィールドワークでは集落全体を探索しながらの観察、実際に生活している方々への聞き込み調査が行われ、学生たちが熱心にメモをとる様子が印象的であった。また各集落は観光地としても整備されているところが多く、それら観光資源はひとつの産業として、地域、集落の貴重な収入源になっている。それらは古からの伝統文化を維持継続していくためには効率の良い方法であるということが認識できた。貴州でのフィールドワークを終え、上海に戻ると学生たちは本格的な作品制作作業へと移行していった。

一方、今回のプロジェクトについてのシンポジウムが中国美術学院の杭州キャンパスにて実施され、武蔵野美術大学

からは白尾隆太郎教授、篠原規行教授、山中一宏教授、清水恒平教授が発表を行い、自身の教育活動や展望について意見交換が行われた。シンポジウムの前後には杭州キャンパス内外を巡ることができたが、その規模感やスケールの大きさを目の当たりにし、中国が国を挙げて教育活動というものに力を入れているということを理解することができた。そして、なによりも教育に携わる方々の熱意が規模やスケールの維持において、大きな要因となっていることも中国美術学院の先生方とお話する中で合点のいくことであった。

今回訪れた中国の上海や貴州省は加速度的に、その環境を変化させているが、学生たちはプロジェクトを通して、その空気感を肌で感じることはできなかったのではないだろうか。また最終的なアウトプットとして作品制作を行うというプロセスは、有意義で貴重な経験となった。ペアを組んでの共同作業は困難な様子も伺えたが、その都度、中国語、日本語、英語様々な言語を駆使し、ディスカッションを行いながら解決に向けて手を動かしていた姿が印象に残っている。

最後に今回のプロジェクトの実現に向けて様々な場面でご尽力いただいた中国美術学院の先生方にはこの場を借りて感謝の意を伝えたいと思います。

クリエイティブイノベーション学科
関根 亮

価値を守ることも美術の重要な役割

苗族最大の村、西江千戸苗寨。観光地化され見事なまでに景観と文化が保存されていた。煌びやかな銀製の装身具を身にまとい、艶やかな刺繍の民族衣装で着飾って歌い踊る。村を訪れた観光客に自家製の米酒をふるまって最高のもてなしで出迎えてくれる。すべて祝福の意味を込めて客人をもてなして来た伝統と文化である。その形式は確かに保存されていた。朗徳上寨も苗族の村。ここでもまた最高のもてなしが待っていた。しかしここで、出迎える村人の視線が空をみてることに気づく。我々が目の前に来たにも関わらず、彼女たちは顎を引いて突っ立ったまま空をみている。

観光化によって歓迎の儀式は見世物となった。形式は当時の華やかさを残し伝えてはいるが、そこにもてなしの精神はない。観光化と精神の保存、とても難しい問題である。

加榜村へ向かうバスが唸りを上げながらどんどん高度を上げていく。山の端が目の高さになった時、呉院長がバスを止めた。降りて右を向くと、能登の千枚田を 2 乗したかのように広がる棚田の絶景、加榜梯田。急斜面の山肌を日本に稲作を伝えたとも云われる苗族の棚田が覆っていた。

この絶景はいつまで存在するのであろうか。この絶景が存在するということは、稲作がこの棚田で継続することでもある。この急斜面での稲作が続くとすれば、その方法は観光による保護政策か、形式化?、あるいは???。生活の糧としての稲作の目的はどう変化するのであろうか。

岜扒侗寨は侗族の村。笙を吹き、チョンマゲを結び、熟鮭をつくる伝統をもつ。今回訪問した村々は山岳地帯にある。近年まで車が通る道路がなかったらしい。だから今も伝統的な生活が守られている。急な斜面に立ち並ぶ杉材で建てられた高床式の家。つくりは雑だが、様式が揃った家々の景観は見事である。昔の日本もこうだったはずなのだが。

急坂と階段を登りながら侗族の生活を垣間見る。足をとめながらもかかわらず、息があがる。休憩する我々を置き去りに駆け上がる子供たちを目にした時ふと、バリアフリー問題が脳裏をよぎる。景観保護か近代化か。この景観は観光で守られるのであろうか。

肇興侗寨。5つの鼓楼が建つ侗族最大の村。この村の侗族生活博物館で、広州からこの村に移住した韓国系中国人のドキュメンタリーに出会う。旅行でこの村を訪れ、この村の環境と伝統と文化に触れ、移住を決めたという。都会に憧れ村を出る村の若者たちに代わり、自分が村の伝統を守るという。伝統や文化は誰が守るべきなのか。村の出身者である必然は、無いこと知る。

ハイデカーの「存在と時間」について、私からの説明は無意味であるが、このサマーキャンプで得た問題はまさしく存在についての問題であり、その継続問題はそれに関わる最小単位としての存在の責任と責務の問題であると考え。そしてその継続のためには、目的が問われるのであり、その際には時間を越えた未来に存在する現存在への責任がその基準になるのであろうと。また、その継続には高い確率でなんらかの変化がともなうこと。その変化を許容することの重要性をこの PJT で学ばせていただいた。

伝統文化の保存と継続のためには、保護政策と観光化という方法が有効であることは疑う余地はない。しかし美大の価値観と表現者の創造力も重要な役割を果たせるはずである。価値を見出し守ること。それも美術造形の社会的役割であることを認識するべきである。

クリエイティブイノベーション学科
篠原規行





存在与时间——中日研究生创新设计创作营
存在と時間——日中大学院生クリエイティブデザイン創作キャンプ
2019.7.28 - 8.26

- 主办：中国美术学院
- 承办：中国美术学院上海设计学院
日本武藏野美术大学
- 总策划：吴小华
- 中方执行：吴小华 胡晓琛 郭奇 孙姝婕 张青
- 中方助理：肖中海 张鼎力 赵友杰
- 日方执行：篠原規行 長谷川敦士 白尾隆太郎 遠藤竜太
- 日方助理：関根亮 河野通義
- 执行助理：王咪
- 视觉设计：王咪 刘致良 濮仕珊 郑心怡 徐天慧
- 外事支持：张韵韵

2019
 中国美术学院+武藏野美術大学 大学院交流プロジェクト
 中国美术学院サマーキャンプ
 「革新志向のデザインと造形」 in China

協定校プロジェクト報告
 クリエイティブイノベーション学科
 篠原規行
 関根亮

CAA&MAU